

「新丹波黒」のエダマメ収穫期の延長技術

農林センター 作物部

要旨

エダマメを目的とした「新丹波黒」の収穫期は、播種期を遅らせることで延長できる。通常の収穫終期である10月22日から5日間収穫期を延長するためには、7月6日頃の播種が適期である。

成果の概要

エダマメ収穫を目的とした「新丹波黒」を、通常の収穫終期である10月22日から5日間収穫期を延長するには、7月6日頃が播種適期である(図)。

播種期を遅らせるほど、開花期、収穫期は遅くなる。しかし、7月以降の播種では開花期に遅延が生じるものの、収穫期はあまり差がない(図・表)。

6月16日～7月16日の間で播種すると、遅いほど主茎長や、主茎節数、一次分枝数が減少する(表)。

7月16日播種の場合、移植が梅雨明け(平年値7月19日)以降となり、活着に至るまでの水管理に多大な労力を要する。

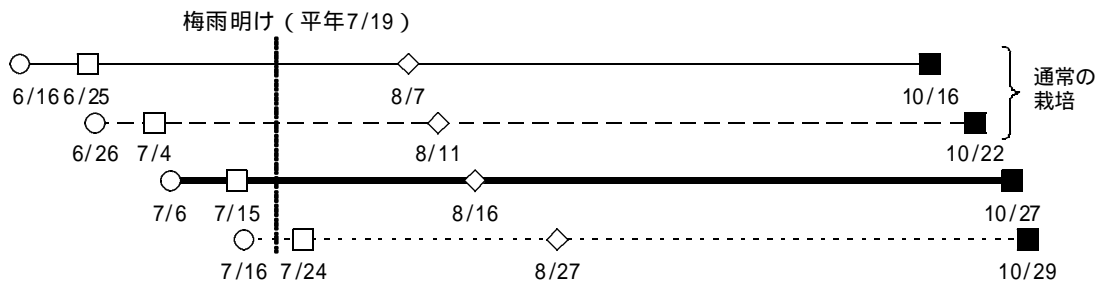


図 播種期の移動による「新丹波黒」の開花期・収穫期の延長効果

注) ...播種期、...移植期、...開花期、...収穫期

表 播種期の違いが「新丹波黒」の生育及び収量に及ぼす影響

播種期 月/日	主茎長		11mm以上莢数 莢/株	11mm未満莢数 莢/株	総莢数 莢/株	11mm以上莢重 kg/10a	収穫適期 月/日
	開花期 cm	収穫期 cm					
6/16	48.8	74.0	76.8	38.2	115.0	553	10/16
6/26	41.3	70.3	71.9	15.4	87.4	562	10/22
7/6	37.7	55.0	64.4	13.9	78.2	551	10/27
7/16	32.0	46.9	63.1	11.5	74.6	(564)	10/29

注) ・栽植密度は2.1株/m²である。莢厚11mm以上が出荷基準となっている。

・7/16播種の収穫調査は適期の2日後に実施したことから莢の肥大が進んだ。

(問合せ先：0771-22-5010)